

筑波技術大学における 情報保障に特化した 技術職員の業務の紹介

聴覚障害系支援課
情報保障支援係
小貫美奈



筑波技術大学について

我が国唯一の
聴覚・視覚障害者の
ための大学

学部生の入学条件に
障害の有無が明記されて
いる
大学院の一部専攻では
障害のない人も入学可能

学生数

(このうちほとんどが
障害学生)

産業技術学部（聴覚障害）
：196名
保健科学部（視覚障害）
：106名
大学院3専攻：19名

教職員数

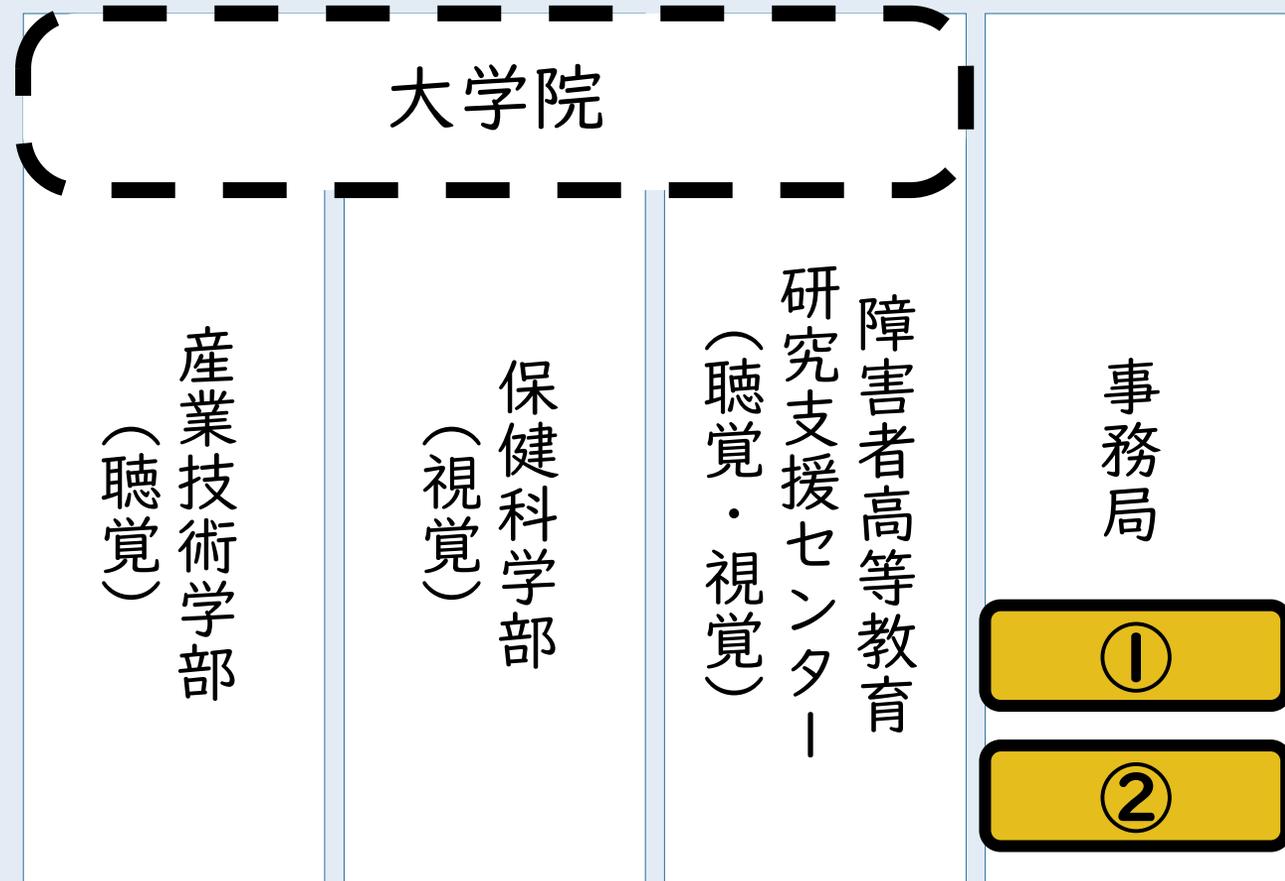
(約10%が
聴覚障害教職員)

教員：103名
職員：57名
(契約職員等は非公開)

筑波技術大学について（続き）

R7.2現在、部局は4つ

このうち、技術職員は
事務局内に2係に
分かれて在席



本学の技術職員の在席状況

- 事務局は4課
- 技術職員が在籍するのは
右記の両支援課
(教員組織には在籍なし)

事務局 (57名)

※契約職員を除く
※令和6年5月1日現在

大学戦略課 (総務系)

財務課

聴覚障害系支援課 (教務・学生系)

視覚障害系支援課 (教務・学生系)

情報保障支援係

本学の技術職員の在席状況（続き）



上記の技術職員のほとんどは元教室系技官（発表者は法人採用技術職員）

学内の情報保障業務について

- 「情報保障」とは
 - (聴覚障害においては)
手話通訳・文字通訳など
 - 障害のあるなしを問わず、
全員が同じようにその場に
参加するために必要な
手立て・支援



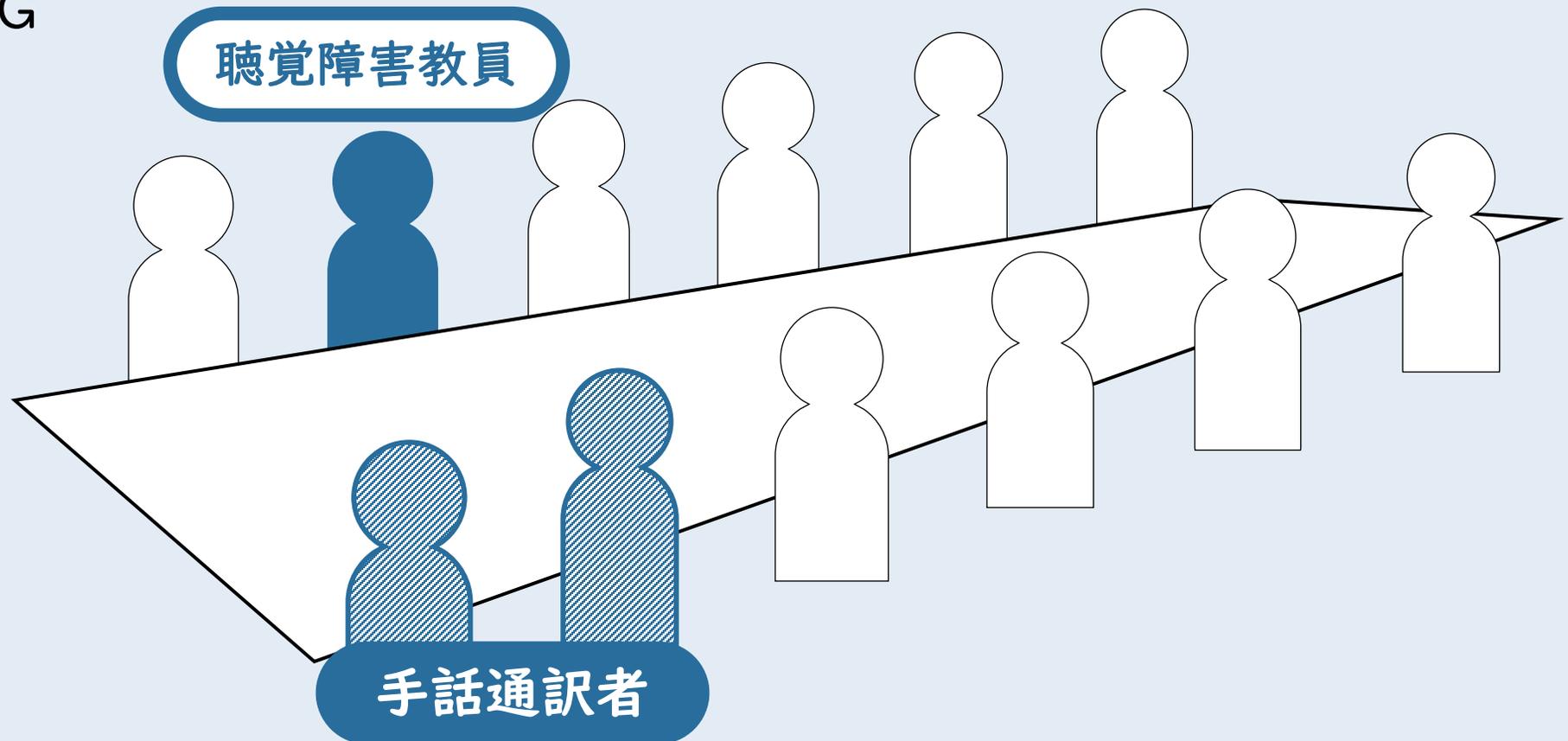
(参考) 日本学生支援機構「教職員のための障害学生修学支援ガイド
(平成26年度改訂版)」Web版

https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/shogai_infomation/shien_guide/choukaku_shougai.html

本学における手話通訳場面

①会議

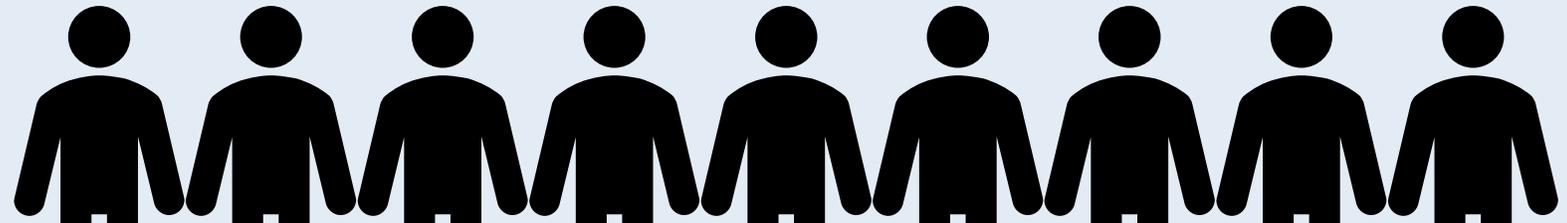
- 教授会・教員会議
- 委員会、WG
- MTG



本学における手話通訳場面

②研修・講演会・イベント

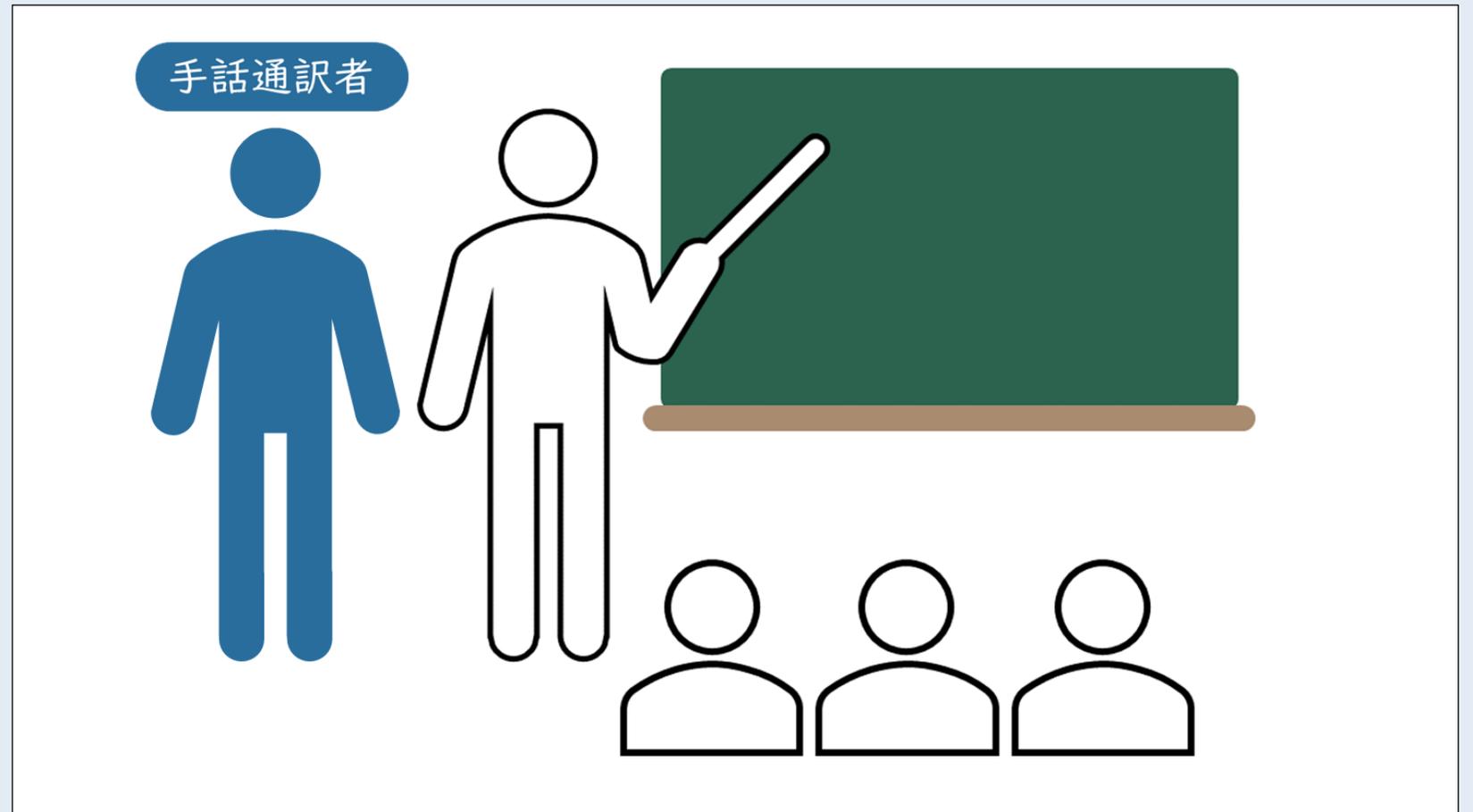
- 各種研修会
 - 初任者研修
 - ハラスメント防止研修
- 講演会
 - 研究倫理講演会
 - FD・SD講演会
- イベント
 - 式典
 - 短期海外研修報告会



本学における手話通訳場面

③授業

- 非常勤講師
(基本は文字通訳)
 - 実習系で
動きを伴うもの
- ゲストスピーカー
 - 担当教員は手話が
できてもゲストには
通訳必要
- 聴覚・視覚障害学生
合同の授業
- 手話話者の学生が
メインで話すもの



手話通訳場面で通訳者がやっていること

- 音声日本語⇔手話の間の通訳
- 様々な「場の調整」
 - 発言が重なった
 - 照明が暗くて通訳が見えない／ろう者の手話が見えない
 - 話者の話が速い
 - 通訳者のいる場所がない

手話で話す人々
(ろう者・難聴者)

手話を知らない人々



(参考) 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科

http://www.rehab.go.jp/rehanews/japanese/No242/7_story.html

(参考) 「デマンド・コントロール・スキーマ 対人専門職としての手話通訳 倫理的・効果的な意思決定のために」
(著) ロビン・K・ディーン、ロバート・Q・ポラード, Jr. (訳) 高木真知子／中野聡子

学内の情報保障業務について(続き)

聴) 情報保障支援系の業務内容

手話通訳の手配と実施

文字通訳の手配と実施

音環境の整備

映像教材への字幕挿入

本学における情報保障業務

障害者のための大学だけど、別途情報保障が必要？

手話通訳・文字通訳が入る場面は大きく3つ

会議

- 手話ユーザー教職員
- 学内全員が手話がわかるわけではない
- 手話<文字というニーズの人

講演会・研修会

- 外部講師は聴覚障害者対応に慣れていない
- 講師がろう者の時もある

授業

- 常勤教員は自身で授業運営
- 非常勤講師、ゲストスピーカーは情報保障が必要

本学における情報保障業務（続き）

1. その案件への聴覚障害者の参加が決まる

2. 当該聴覚障害者が手話通訳 or 文字通訳を要する

3. 担当教職員から情報保障支援係宛に専用フォームで依頼が来る

4. 情報保障支援係が手話通訳者・文字通訳者を手配する

5. 情報保障付きで案件実施

6. 支払い

本学における情報保障業務（続き）

学内の位置付け、根拠

国立大学法人筑波技術大学情報保障業務に関する要項

- ・ 聴) 情報保障支援系の業務内容を規定
- ・ 守秘義務について明記

手話通訳，遠隔文字情報保障，パソコン要約筆記に関する申合せ

- ・ 依頼～手配～支払いのフロー

R6.4～
視) 情報保障
支援係が発足
(係名変更)

本学における情報保障業務（続き）

手話通訳について

現在、手話通訳職員は発表者1名（1名欠員状態）

- おおむね45分を超えるもの、内容が複雑なもの
- 別件と重なっている場合



外部に通訳依頼

外部の通訳依頼先

- 聴覚障害者情報提供施設
- 個人の手話通訳者
- 民間の手話通訳派遣事業所

（ちなみに）コロナ以降、オンライン手話通訳が増加

- 従来の手話通訳は対面を想定、オンライン手話通訳のノウハウがなかった
- 四苦八苦してオンライン手話通訳をシステム化 → R6科研費獲得、成果まとめ中

今後について

課題

手話通訳職員が現在報告者のみ（1名欠員状態）

- 相談できない
 - 行き詰った時、対応に迷った時
 - 通訳の振り返りとその蓄積
 - 研鑽のシェア
 - お互いのフォロー（支え合い）
 - 通訳は、チーム体制が要
- 身体が足りない（案件重なると片方にしか行けない）

先輩3名（係長含む）が10年以内に全員退職

- 今後の係体制は？
- 後継者について